活きるビジネスパーソンのための情報紙 －カツ－
KATSU

お金、株、夢、結婚…

知恵でカツ。

フィナンシャル・アドバイザー
若林 史江さん

フィナンシャル・アドバイザーの若林史江さん。2000年代の株式投資ブームでは「美人トレーダー」として一躍時の人に。現在は本業のトレーダー業に専念しながら、徳山大学の特任講師として教壇に立つ。ＴＯＫＹＯＭＸテレビ「５時に夢中！」ではマツコ・デラックスさんとともに、月曜日のコメンテーターを務める。

若林さんが証券の世界に飛び込んだのは19歳のころ。子どものころから憧れていた看護師への夢を断たれ、就職情報誌を片手に偶然就職した投資顧問会社で転機が訪れる。「もしかしたら渋谷109で店員をやってたかも」と笑う。

株式の知識も経験もまったくない状況からのスタート。インターネット普及前夜で、株式投資は一部の投資家のものだった時代。日本経済がどん底にあった90年代後期だ。乱高下する株価やＩＴ株の隆盛の中に身を置きながら、身をもって株の魅力と怖さを体感してきた。そこで若林さんが学んだのは「知恵を身につけること」。

日本の株取引の中心地、東京都中央区日本橋兜町周辺でインタビューした。

やっぱり株が好きなんです。

●ナースの夢

―もともと看護師になりたかったとか。

「いまだになりたいですけどね（笑）。幼稚園の卒園アルバムにはじまり、ずっと文集とか将来の夢は全部そうなんですよ。なぜって言われるとわからないんですけど。昔から『救命24時』みたいな番組が好きで。健康なので入院したこともないですし、看護師さんに触れることもなかったんですけど。なぜか看護師だったんですよね」

―大学受験でも看護大学を受験しようと。

「でも受験前に父親の会社が倒産して、大学へは行かせてあげられないと言われて。そんなに人生に絶望した感じはないんですけど、やっぱり行きたかったなっていうのはありますよね。兄も大学院にはいけないって言われて諦めました。私が家で泣いていると、兄に言われたんです。結局世の中、上中下と分けたとすると、その中にも上の人がいて、下の人がそれぞれにいる。じゃあどこがいいんだっていうのは一概には言えないと。夢を諦めないといけないけど、どこに身を置いたとしても、そのなかで上を目指せばいいじゃないかと。今となってはこんな雑な分け方ないなと思うんですけど。すごく印象に残っています」

―今でも時々思い返すんですね。

「あまり思い返しはしません（笑）。でもあの時の生きる糧にはなりました。その言葉が私をがむしゃらに突き動かしたかといえばそうじゃないけど。中高生のころから、部活だったら部活だけしか見えなくなっちゃうんです。中学では吹奏楽、高校はチアリーディングやってたんですけど。365日中360日は学校行って部活してます、みたいな毎日。勉強なんかは下の下。でも両親は人生で一本筋が通っていれば社会で役に立つ、人生生きていく上ではものすごく大事なことだと。その姿勢は大事にしなさいと、よく言われていました」

●19歳の決意

―看護師になれないというところから、証券の道に入っていくわけですよね。いきなりトレーダーではなかった。

「私も家にお金を入れないといけなくて、携帯電話ショップでアルバイトしてたんです。いつも求人情報誌『とらばーゆ』を見ながら、高給取りになりたいな、お金もっと欲しいなと漠然と思ってたんですよね。たまたま高給取りになりたい人集まれみたいな特集があって。かたっぱしから、職種問わずにとりあえず8社予約しました。最初に行ってその日のうちにオーケーもらってしまったのが、投資顧問会社だったんです」

【続きは2面へ】

【発行】日刊工業新聞社 西部支社
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町1－1
E-mail katsu@media.nikkan.co.jp
取材や広告、配布のお問い合わせは（「KATSU カツ」発行担当） TEL 092-271-5716
9:30～17:30（土・日曜、祝日を除く）
無料 転載不可

INDEX

1～2面…インタビュー
3面……経済・ビジネス
4面……ビジネスグッズ
5面……マネー
6面……人・キャリア
7～9面…モノづくりがアツい！（モノづくりフェア2011関連企画）
10面……あの人に聞きたい！（高島宗一郎福岡市長インタビュー）
11面……医療・健康
12面……スポーツ